

タイトル:平成 17(2005)年度 教育セミナー

日時:平成 17 年 7 月 26 日(火)～29 日(金)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究 3 階 マルチメディアセミナー室(306)

「深層と表層の間—ジャワにおけるイスラーム」

宮崎 恒二(AA 研)

90%近くがモスリムであるジャワに関して、イスラームはその表層を成すに過ぎない、とする見方は、少なくとも部分的には、キリスト教に対立するイスラームの過小評価に由来する。植民地期におけるジャワ研究とは、イスラームの影響を排除した「固有」の伝統を追求したものであった。しかし、ジャワ人の日常生活は、すでに時間、儀礼など、「体制」がすでにイスラームによって大きく規定されている。

ギアツの記述に見られるように、ジャワ人は、イスラーム的かジャワ的かという問いを繰り返してきた。近年、生活の体制をイスラーム的に塗り替える動きが進んでいる。

他方、マレーシアにおけるジャワ系マレー人は、非イスラーム的と見なされる呪術を生業とする場合も少なくない。ジャワ以上に(再)イスラーム化の圧力の強いマレーシアにおいては、彼らは自らの存在基盤のニッチ保持と、モスリムとしての地位の確立という岐路に立たされている。